

- ◆日時：2023年9月10日（日） 10:00～12:00
- ◆会場：十日市場地区センター 小会議室B
- ◆参加：池田、片山、佐々木、田中、中島、吉開、山下、半田、ロドリゲス（9名）
（欠席＝片上、中里、早川、樋口、深瀬、松崎、三浦）

1. 皆さんからの近状報告

- ・池田さん・吉開さん：講演を聞き親族の戦争体験を思い起こした（赤紙招集、現地に出兵）
- ・山下さん：次世代との世代間格差を痛感＝娘・孫世代はスマホを使って勉強している世代。
- ・片山さん：9/17～18 横浜国大で「ぼうさい国体 2023」が開催（防災塾だるま＝J-DAG 出展）

2. 講演テーマ「パプアニューギニア 戦没者遺骨収集」・・・講師：荻原洋聡さん



左：荻原さん遺骨収集活動時の服装

中央：活動時の装備品（常日頃から使い慣れておく）

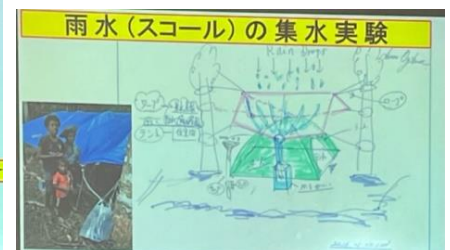
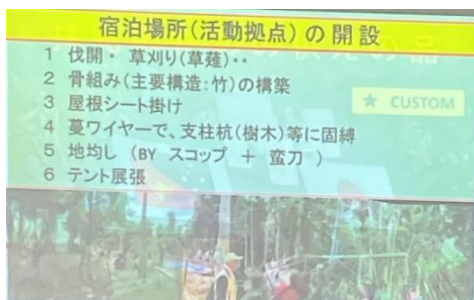
右：事業の概要



- ・経歴：防衛大学（土木）卒、海上自衛隊入隊、海佐で退任。
- ・自衛官の現職時代：①ソマリア派遣、②2011年八戸越冬隊から東日本大震災救援、退官後（現在）：「戦没者遺骨収集活動」に2023年（3月、7月、9月）3回参加
- ・戦没者遺骨収集事業：日本戦没者遺骨収集推進協会（厚生労働省委託）が事業を実施
- ・過去5年間の遺骨送還実績：樺太、旧ソ連、インド、ミャンマー、硫黄島、ニューギニア等
- ・南方諸島：ビスマーク、ソロモン、マリアナ、パラオ、トラック、マーシャル諸島
- 2017年＝912体、2018年＝816体、2019年＝346体、2020年＝46体、2021年＝24体

3. パプアニューギニアの現地情況

- ・赤道直下で年間雨量が7～8000mmの高温多湿のジャングル（特殊な服装が必須＝虫害回避）
- ・飲料水は収集現場から1時間以上歩かないと確保できない（米軍は地下500m採掘し確保）
- ・収集作業のサポーターは現地で村長の協力を受け、人工を日雇い
- ・宿泊場所の確保＝伐採・草狩り、竹材で骨組み、シート掛け、蔓ワイヤーで固定、テント張り
- ・雨水の集水実験を実施した
- ・必需品：火打石（→ローソク→ガスランタン）、アマチュア無線、慰霊用に楽器フルート



左から：現地「活動拠点の開設」、蔓ワイヤーで固定した拠点（夜は中にテント張り）、スコールの集水実験現場

感想：・人道的活動とは言え、講師の人並外れた壮絶な活動に感服しました。

・世界で最も高温地帯「アフリカ・ジブチ」の生活住民は、特別な高温順応力が備わっているか？

次回の定例会：10/8（日）10時～12時 十日市場地区センター 2階 小会議室A
「今後の原発問題について」 講師：畑 孝也さん（原子力研究開発機構）